



第4回DIC協議会総会 資料

令和5年3月28日

1 .各PTの開催結果

2 .モビリティ・物流PTの継続実証プロジェクトについて

3 .次年度以降のDICの進め方について

4 .令和5年度のスケジュール等について

1.各PTの開催結果

第5回ライブ・エンタメPT

開催日	2023年2月21日（火） 15 時00分～16時00分
開催場所	WEB会議
参加者	(株)フジテレビジョン、森ビル(株)、（一社）臨海副都心まちづくり協議会、有識者（東京大学大学院情報学環 濱田様）、事務局
議事	主な意見
実証「魅力的なイベント等を体験できるまち」へのご意見	<ul style="list-style-type: none">• 今回の実証において評価できる点について<ul style="list-style-type: none">➢ 3DPhantomを観るためにデバイス着用が不要であった点➢ 花火という臨海副都心エリアの観光資源が活用できた点• 今後検討の余地が残る点について<ul style="list-style-type: none">➢ ストーリーや演出の必然性が不足していたと考えられる➢ 今後、事業化にあたって将来的な価格設定をどうするか• 実証のスケールアップや発展について<ul style="list-style-type: none">➢ （引き続き3DPhantomを活用するなら）演出をダイナミックにして魅力度を高めていくことが考えられる。例えば風車ように大きなサイズで迫力を増すなど➢ 実施期間を長くしたスケールアップを図るなら、お台場イルミネーションとコラボしてマネタイズしてもよいと思う➢ 先進的なエンタメ性を出していく観点では、大規模予算をかけた没入的な演出、高付加価値・高単価なサービスによるマネタイズモデルを実現する必要がある。スターアイランドは好例であり、国内外からの評価も高い➢ クルーズターミナル起点のエリア周遊も盛んになるため、先進的なエンタメを実装し、エリアの魅力を高めたい• 3DPhantomとコンテンツの連携について<ul style="list-style-type: none">➢ 引き続き花火と連携する場合はフジテレビの展望台が活用できる。ただし、花火の大きさとテクノロジーによる演出規模がアンバランスにならないよう調整が必要だと考える➢ 夜のイルミネーションや花火に加えて、日中のコンテンツ連携として自由の女神付近の水上ショーも候補になり得る➢ 今後も様々な事業者とエリアならではのコンテンツを生かした取組を進めていきたい

1.各PTの開催結果

第5回モビリティ・物流PT

開催日	2023年2月24日（金）13時00分～15時30分
開催場所	WEB会議
参加者	日本科学未来館、東京都立産業技術研究センター、Le DESIGN(株)、日本工営(株)、事務局

議事	主な意見
実証結果報告 (AIスーツケース)	<ul style="list-style-type: none">• 実証参加者数：一般・視覚障害者が49名、メディア63名、関係者40名• 実証結果：視覚障害者利用満足度 90.5%、一般参加者インクルーシブ態度変容 93.3%、屋外走行・測位・ナビゲーション クリア• その他：<ul style="list-style-type: none">➢ 他モビリティの実証と連携した効果では、対外的な注目度の高まりや、実証参加者によるまちに対する当事者意識の醸成ができた。➢ AIスーツケースは街歩きの選択肢を増やすもの（報道にあったように盲導犬に代わるサービスではなく、盲導犬の他に選択肢を増やすサービス）➢ 将来のマネタイズとしてエリアでのレンタルモデルを目指している。アプリ上で予約から操作までワンストップ化できるとよい
実証結果報告 (新型観光モビリティ)	<ul style="list-style-type: none">• 実証参加者数：220名（一般参加者）• 実証結果：満足度 99%、料金支払許容度 96%（500円～2,000円）、技術安心度 95%• その他：<ul style="list-style-type: none">➢ 「走行スピードが遅い」という反応もあった。技術的に速度を上げる対応もできるが、エリアの魅力を最大限感じてもらえる速度で運行していきたい➢ 今後の論点として、お台場の魅力を伝える方法をどうするか。実証での期待感も高かったVR/MRなどXRの活用が最適どうか、今後検討したい。➢ 警察庁、警視庁、運輸局からプロジェクト推進の前向きな感触を得た。また規格を120cm程度とし歩行者として扱える可能性もあると助言もあった
各実証企画の確認 (都有地・公道の自動運転)	<ul style="list-style-type: none">• 実証参加者数：（都有地）406名、（公道）913名• 実証結果：<ul style="list-style-type: none">➢ （都有地）エリアへの実装に向けては、エリアに複数の停留所を設置し、定時・定路線で複数台数を面的に実現することが好ましいと示唆される➢ （都有地）社会受容性の向上は課題の一つ（サービス利用需要は高い一方、歩車共存の走行に対する不安を感じる利用者も一部いた）➢ （都有地）運行資金の確保も課題。広告物条例を緩和できれば、車両内外の広告掲載による収入のほか、施設連携や回遊促進も見込める➢ （公道）エリアでの利用需要は高い。「導入されれば自動運転バスルートを利用したい」が約94%を占める結果が出ている➢ （公道）社会受容性では、乗車後に肯定的な意見が増加した（ドライバーや保安員の乗車は、条件付きでも無人化に肯定的な人が多い）➢ （公道）実装に向けた課題は運航主体と収入である。収入について、利用者に許容される価格は低廉であり、運賃以外の収入確保が必要となる。

1.各PTの開催結果

第5回DPF構築検討会（防災・防犯PT）

開催日	2023年2月9日（水）15時00分～17時00分
開催場所	テレコムセンター東棟20F会議室 2
参加者	(株)フジテレビジョン、森ビル(株)、日本科学未来館、東京都立産業技術研究センター、東京臨海副都心まちづくり協議会、産業技術総合研究所、日本電気(株)、アビームコンサルティング(株)、事務局
議事	内容
進捗報告	<ul style="list-style-type: none">スケジュールの進捗、ユースケースの要件定義、プロトタイプ構築について報告（令和4年度データプラットフォーム要件定義委託中間報告）
ユースケースの要件定義について	<ul style="list-style-type: none">一時滞在施設と事業者の情報連携について<ul style="list-style-type: none">これまでは、一時滞在施設の情報に関して、間に事業者が入り全くスピード感がなかった。ユースケースのように事業者と一時滞在施設間でのチャット機能が実現すれば画期的だと思う発災時におけるエリア滞留者・滞在日数の想定について<ul style="list-style-type: none">都立一時滞在施設では、想定キャパシティに対して3日分の備蓄を用意することが条例で決まっている現状、来訪者情報の解像度は高くない。今後、どういう日、どのような人が集まるかなどを想定して情報を取り込むよう考える必要発災時にエリア内で共有する情報について<ul style="list-style-type: none">実際の発災時は、施設担当者は備蓄品の情報を他施設へ共有している余裕はないだろう。果たして共有すべき情報が備蓄なのか備蓄品共有の必要性や、他に共有すべき情報について今後議論していきたいユースケースを踏まえて、更に搭載すべきと考えられる機能はあるか<ul style="list-style-type: none">イベントの主催者や鉄道事業者間で、イベント来場者数、開催時間帯を共有できると混雑分散やスムーズな運営につながるだろう駐車場や道路の渋滞情報も取得できると望ましい商業施設の駐車場データや電車の混雑予測データなど、購入データとオープンなものを組み合わせ、適切なものを判断の上今後検討したい
ダッシュボードプロトタイプ構築について	<ul style="list-style-type: none">データの更新主体や体制が既に決まっているかについて<ul style="list-style-type: none">各一時滞在施設の管理者による備蓄数量のデータ管理、東京都による施設開設・閉設の管理など、管理主体を明らかにしておきたい発災時、現場は自らの施設の安全確保で手一杯。そういった現場事業者の負担減らす形で情報を吸い出す仕組みを検討してほしいプロトタイプへ連携するデータ種別について<ul style="list-style-type: none">道路混雑情報や駅構内のカメラデータなどの連携について、都のオープンデータには無く、個人情報管理の観点から、駅構内や施設が保有するカメラ映像の公開も難しいただし、西新宿スマートシティのように、色々な機能を取り組んだスマートポールを整備するなどの例もあるように、人物が特定できないように将来的に画像を取り込むなどの可能性はあるだろうDICのプラットフォームのプラチナデータは何にするか（何なら事業者にとって有用なのか）、決めた方がよいプロトタイプの構築の進め方について<ul style="list-style-type: none">実際の一時滞在施設の開設担当者などにプロトタイプを使っていただき意見を集約するべきだろう（このプロトタイプは）アジャイル的な開発を念頭にしている。地域にとってよい仕組みができる共通理解をもちながら、利用が増えるにしたがってデータの種類や規模も拡大をしていくやり方で進めていきたい

1 .各PTの開催結果

2 .モビリティ・物流PTの継続実証プロジェクトについて

3 .次年度以降のDICの進め方について

4 .令和5年度のスケジュール等について

2.モビリティ・物流PTの継続実証プロジェクトについて

AIスーツケースによるインクルーシブな移動の実証（日本科学未来館） 1/2

テーマ
④モビリティ・物流
臨海副都心の課題
臨海副都心地域における来訪者回遊の低下。 広大なエリア全体の回遊を促す、モビリティ環境や 障害者・高齢者など移動弱者に対するアクセシブル、 インクルーシブな移動環境の未整備。
2025年に目指す姿
デジタルテクノロジーの実装により、障害者や移動に不自由な ある方でも、気軽に来訪して、各拠点間を自由に移動し、だれ でもまちの移動、回遊を楽しむことができる、インクルーシブな街。
企画概要
■ 企画名称案： ナビゲーションロボット「AIスーツケース」屋内外移動実証 ■ 企画概要 公共交通機関駅（ゆりかもめテレコムセンター駅改札）～市 街地（プロムナード公園）回遊～目的施設（日本科学未 来館）へのAIスーツケースを用いたナビゲーション技術実証を 実施。視覚障害者を拠点駅から目的地まで屋内外の区別な く、安全に案内し、視覚障害者の地域来訪時のインクルーシブ な移動環境ソリューションのあり方を検証する。 ■ 候補日程 令和5年9月下旬（14日間程度）

活用する先端技術	
■ 自律型ナビゲーションロボットAIスーツケース ・ LiDAR/深度センサー/高精度衛星測位による測位・検知 と、AIによる自律走行・ナビゲーション技術	
企画参加者・役割	
■ 企画・開発・実施・実証：日本科学未来館 ■ 会場・ルート協力：株式会社ゆりかもめ（案）	
予算計画（円）	
-	
3か年計画	
1年目 2022	■ 屋外走行・ナビゲーション実証 （シンボルプロムナード公園）
2年目 2023	■ 地域拠点間屋内外ナビゲーション実証 （ゆりかもめ駅改札～公園～日本科学未来館内）
3年目 2024	■ 近実環境ナビゲーション実証 （距離延長、信号横断、複数拠点間移動等）
想定KPI	
■ 技術：屋内外、反屋外のシームレスなナビゲーション、傾斜・詳細ルートナビゲーション、新衛星測位技術、エレベーター乗降 ■ 当事者（視覚障害者）の利用意向度70%以上、安全度70%（体験アンケート回答ベース）	

2.モビリティ・物流PTの継続実証プロジェクトについて

AIスーツケースによるインクルーシブな移動の実証（日本科学未来館） 2 / 2

2025年に目指す姿

- デジタルテクノロジーの実装により、障害者や移動に不自由にある方でも、気軽に来訪して、各拠点間を自由に移動し、だれでもまちの移動、回遊を楽しむことができる、インクルーシブな街。

R5実証イメージ

- 【活用技術】 自律型ナビゲーションロボット「AIスーツケース」（センサー/衛星測位/AIによる自律ナビ・走行技術）
【実施場所】 臨海副都心・青海南エリア



2.モビリティ・物流PTの継続実証プロジェクトについて

PARTNER MOBILITY ONE with PiiMo による先進観光サービスの実証 (Le DESIGN) 1/2

テーマ

PARTNER MOBILITY ONE with PiiMo による
先進的インクルーシブ観光モビリティサービスの実証事業

臨海副都心の課題

1. りんかい線やゆりかもめの1次到着駅から最終目的地までの2次交通が不足しており、移動に不安を抱える高齢者や障がい者の利便性に改善余地がある (SDGs 課題)
2. 各エリア到着後の回遊支援も不足。移動弱者が、家族や友人と一緒に観光やショッピングを楽しむのが難しい
3. お台場の先進性をPRする観光モビリティサービスが乏しい

2025年に目指す姿

1. 健康な方から移動弱者までのすべての人が一緒に楽しめるスマートモビリティサービスで、インクルーシブ観光のモデルエリアになる
2. 自動運転とxRを融合した世界初の観光モビリティサービスが主要エリアに実装され、お台場の先進性を国内外にPRできる

企画概要

1. 2022年度にウエストプロムナード（東京国際交流館前）で99%という高い満足度を得たベンチ型モビリティ「PARTNER MOBILITY ONE」と車いす型モビリティ「PiiMo」による「大切な人と一緒に思い出をつくる」インクルーシブ観光モビリティサービスを2025年の実装に向けて内容とエリアを拡充し、技術面、事業性の両面で課題抽出を行い、改良を進める
2. xRガイド連携とその事業性評価も試み、走行エリアはシンボルプロムナード（東京レポート～ガンダム立像周辺）もしくはウエストプロムナード（東京国際交流館前）とする

活用する先端技術

1. Le DESIGN社「PARTNER MOBILITY ONE」とパナソニックPE社「PiiMo」を組み合わせた先進観光モビリティ群
2. GPS-RTK、LiDAR等のセンサフュージョンによる高度自律移動技術
3. 自動運転とxRガイドを融合した先進観光モビリティサービス

企画参加者・役割

1. Le DESIGN株式会社（久留米工業大学）：事業企画、統括
2. パナソニックロボティクスエンジニアリング株式会社：PiiMo、xR技術協力
3. パーソルクロステクノロジー株式会社：車両改修技術協力

予算計画（円）

-

3か年計画

- | | |
|------------|--|
| 1年目
(済) | <ul style="list-style-type: none">➢ PM-ONE+PiiMoによる観光サービスの課題抽出➢ インクルーシブ観光モビリティサービスの市場調査➢ 規制緩和提案に向けた協議 |
| 2年目 | <ul style="list-style-type: none">➢ PM-ONE+PiiMoによる観光サービスの導入エリア検討➢ 自動運転とxRを融合した新観光コンテンツ開発➢ 上記SDGs対応観光サービスの海外発信 |
| 3年目 | <ul style="list-style-type: none">➢ 上記観光サービスの先行導入実証と事業性評価➢ 関連スタートアップエコシステム基盤形成➢ 海外連携協議スタート（観光および技術の連携） |

2023 (R5) 想定KPI

- | | |
|------------------|-----------------|
| ➢ サービス体験者 | : 200名（実証期間による） |
| ➢ xR連携サービス満足度 | : 70% |
| ➢ サービス体験料支出許容平均額 | : 1,000円 |

2.モビリティ・物流PTの継続実証プロジェクトについて

PARTNER MOBILITY ONE with PiiMo による先進観光サービスの実証 (Le DESIGN) 2/2

2025年に目指す姿

1. 健康な方から移動弱者までのすべての人が一緒に楽しめるスマートモビリティサービスで、インクルーシブ観光のモデルエリアになる
2. 自動運転とxRを融合した世界初の観光モビリティサービスが主要エリアに実装され、お台場の先進性を国内外にPRできる

R5実証イメージ

- 【活用技術】
1. 「PARTNER MOBILITY ONE (Le DESIGN)」と「PiiMo (パナソニックPE)」を組み合わせた先進観光モビリティ群
 2. GPS-RTK、LiDAR等のセンサフュージョンによる高度自律移動技術
 3. 自動運転とxRガイドを融合した先進観光モビリティサービス
- 【実施場所】
1. シンボルプロムナード (東京テレポート～ガンダム立像周辺) もしくはウェストプロムナード (東京国際交流館前)
 2. 雨天時は日本科学未来館内で実施



世界初の横乗りベンチ型モビリティ



すべての人が一緒に楽しめるインクルーシブ観光



友人と一緒に移動オープンカフェのような観光体験



夜景などの借景を利用した観光コンテンツ (予定)



地域の特徴をいかしたxRコンテンツ (予定)



右に見えているのが
ユニコーンガンダムです

遠隔通信を活用したリアル観光ガイド

1 .各PTの開催結果

2 .モビリティ・物流PTの継続実証プロジェクトについて

3 .次年度以降のDICの進め方について

4 .令和5年度のスケジュール等について

次年度以降のDICの進め方 目次

1. DICの活動経過
2. これまでの活動を通して得られた知見
3. DICロードマップの更新
4. 臨海副都心エリアを取り巻く変化
5. 2023年度以降のDIC取組
6. 2025年、2030年に向けたロードマップ（案）
7. DICが目指す2030年の臨海副都心のイメージ

1.DICの活動経過

- 2021年3月に立ち上げてから、これまでや協議会・PTの開催や実証事業を展開し活動を拡大してきた

2021年度の主な活動

DIC協議会の設立（2022年3月）

DIC協議会やPT・検討会の開催

- 協議会を年4回
- 2 PT（ライブ・エンタメPT、モビリティ・物流PT）を年3回
- DPF構築検討会を年3回
- DICワークショップを1回

イベント・実証プロジェクトの推進

- AR 謎解きゲーム「メガマウっさんを解き放て！」
- 「アプルス・マルチアングルビューイング」システム開発
- 「お台場バーチャルフェスティバル VenusFort 最後のイルミネーションと春のpromナード公園を360度配信」
- 自動運転EVモビリティの実証実験

DIC協議会の広報PR

- HP、SNS（Note、Facebook）での活動内容発信

DICロードマップの策定

- DICにおける2025年・2030年のまちの姿等を設定

令和4年第4回DIC協議会資料_ <https://tokyo-dic.jp/pdf/conference-04-02.pdf>

2022年度の主な活動

DIC協議会やPT・検討会の開催

- 協議会総会を年4回
- 2 PT（ライブ・エンタメPT、モビリティ・物流PT）を年6回
- DPF構築検討会及び防災・防犯PTを年6回

イベント・実証プロジェクトの推進

- 花火を3Dホログラム映像に重ねる空間演出
- 透過スクリーンを活用した立体空間演出型ライブビューイング
- ナビゲーションロボットAIスーツケース
- 観光用小型モビリティ「Partner Mobility One」
- 自動運転EVモビリティの実証実験

DIC協議会の広報PR

- HP、SNS（Note、Facebook）での活動内容発信

DICスタートアップ社会実装支援窓口の開設

- 2022年11月9日に開設

<https://tokyo-dic.jp/startup/>

2.これまでの活動を通して得られた知見

- イベント・実証プロジェクトやスタートアップとの連携にかかる知見を今後生かしていきたい

得られた知見	DIC協議会のスタンス	<ul style="list-style-type: none">• DIC協議会がイベントを主催することにこだわらず、エリアで実績のある多様なイベント企画や運営について、デジタルテクノロジーを活用したスケールアップやサービス向上の支援をしていく (例) ライブ・エンタメPT実証
	イベント・実証プロジェクトの連携実施による効果	<ul style="list-style-type: none">• 複数プロジェクトを同時期に連携して実施することにより、対外発信力の高まりや、サービス実装に向けた関係者の課題認識が深まる等、大きな成果が得られる (例) 未来を乗りにおいてよ 次世代モビリティのまち体験
	スタートアップとの連携	<ul style="list-style-type: none">• 全方向的な広報よりは、課題認識やアイデアを持つ企業・大学を起点として、技術・シーズを持つスタートアップを連携させていくことが有効
	DICや臨海副都心の特長について	<ul style="list-style-type: none">• 他スマートシティでは実現が難しいが、臨海副都心ならば実現し得る・やりやすいことを訴求すべき (例) メガイイベントやエリア施設との連携、広大な海上公園や空地の活用、インバウンド需要の取り込み etc

3.DICロードマップの更新

- これまでに得られた知見等を踏まえて、DICロードマップをブラッシュアップしていきたい

DICロードマップ

DICにおける2025年・2030年のまちの姿

- DICでは、先端技術を活用した**ライブ・エンタメイベントの開催を軸**とし、それを支える**モビリティ・物流**、**防災・防犯**や**環境・サステナビリティの実現を2025年を一つの指標として**取り組む

ライブ・エンタメを軸に

	2025年のまちの姿	2030年のまちの姿
2025年に向けたロードマップ	【ライブ・エンタメ】 青海の広大な空間を活用した「ドローン等の先端技術」の象徴的イベント開催 ・ 公園や未利用地を活用した、このエリアでこそ実施できる先端技術を使ったイベント（ドローンショー、AR体験、デジタルアートなど）	【ライブ・エンタメ】 先端技術（ドローン、XR、デジタルアート、eスポーツ等）を活用したイベントが開催され、来訪者で賑わうまち『Creative & Entertainment』 ・ 5G（キャリア）ネットワークのカバー率100% ・ 規制が緩和（ドローンの自由飛行可、イベントに関連する（デジタル）広告掲出可） ・ 先端技術を用いたイベント開催の積み重ねによるブランディング
	【モビリティ・物流】 イベント等に訪れる人が「モビリティ等」で臨海副都心内を回避 ・ セントラル広場周辺において、複数のアクセス手段による回避性向上を実現	【モビリティ・物流】 誰もがアクセスしやすく自由に往来できるまち『Accessible & Diversity』 ・ 域外ターミナル駅等からのアクセス向上（BRT、自動運転バス） ・ 域内の回避性向上（パーソナルモビリティ、自動運転タクシー、シェアサイクル、グリーンズローモビリティ） ・ バリアフリーの推進（AIスーツケース）
	【防災・防犯】 来訪者の安全・安心を「データ」で確保 ・ 情報を一元化し、災害に係るシミュレーションを実施 ・ 発災時の人流制御や適切な情報発信手法を検証	【防災・防犯】 安全で安心して訪れ、滞在できるまち『Safe & Comfortable』 ・ 人流データを活用したシミュレーションに基づく、まちのBCP策定 ・ 発災時の人流コントロール・誘導、情報提供 ・ インバウンド客への円滑な案内（多言語化より（デジタル））
	【環境・サステナビリティ】 環境に配慮した先端技術の活用、持続可能なまちづくり ・ 環境に配慮した先端技術等の活用 ・ アクセシブルに向けた先端技術等の活用 ・ 誰もが楽しめる（多様性を配慮した）イベント実施	【環境・サステナビリティ】 環境に優しいまち『Smart & Sustainable』 ・ ゼロエミッションの推進 ・ SDGs推進

まず、エリアに「来訪者」が集まり、賑わうまちへ

そして、商機を求める「スタートアップ」が集まるまちへ

(引用) 令和4年第4回DIC協議会資料P5_ <https://tokyo-dic.jp/pdf/conference-04-02.pdf>

追加・変更を行いたい点

DICのイベント主催へのスタンス

- 「青海エリアでの象徴的なイベントを主催」にこだわらず、**エリアの既存イベントの企画・運営をサポートをするスタンス**で活動を行う

活動内容

- 新たなスタートアップ等の交流機会となる**イベント・カンファレンス等の共創・交流活動**を実施していく
- 実証から**実装に向けた課題解決の取組**も本格的に実施していく

2030年の未来像

- 将来像はイメージしつつ、過去の検討に縛られずにアジャイル的に実装する観点から、2030年の臨海副都心は**リアルマップではなくパース**で描いていく

4.臨海副都心エリアを取り巻く変化

- 2025年にかけて進出企業や来訪者の増加が見込まれ、未来の都市構築に向けたサービス需要が高まる見通し

今後、臨海副都心エリアでおきること

エリア新規開発や施設リニューアル

- 臨海副都心への企業の進出により新たなスポーツ施設、交流拠点などが整備される
 - トヨタ自動車「TOKYO A-ARENA PROJECT」
 - コナミ「コナミクリエイティブフロント東京ベイ」
 - テレビ朝日による、イベント・エンタメスペースのあるMICE施設建設
 - ビーナスフォート跡地の活用



「TOKYO A-ARENA PROJECT」

(引用) トヨタ自動車HP_「TOKYO A-ARENA PROJECT」始動
URL:<https://global.toyota.jp/newsroom/corporate/37817560.html>

来訪者増によるにぎわい

- 東京国際クルーズターミナルへの外国客船入港が進み、インバウンドが拡大していく見込み
- メガイベント・展覧会の開催等により、コロナ禍以前の来訪者数（年5,500万人規模）まで回復する可能性
- 新たな企業の進出を受けて、従業員、関係企業、観光客も増加見込み



東京国際クルーズターミナル



お台場レインボー花火

(引用) 東京港客船ターミナルHP
URL:<https://www.tptc.co.jp/terminal/guide/cruise>
(引用) 東京お台場.netHP
URL:<https://www.tokyo-odaiba.net/rainbow2022/>

都のスタートアップ施策推進

- スタートアップのイノベーションや持続可能な未来の都市構築を狙いとした強力な事業が続く
 - City TechやSushi Techなど、スタートアップ向けカンファレンスの開催
 - 「東京ベイeSGプロジェクト」の展開
 - 「Global Innovation with STARTUPS」によるスタートアップ向け支援



(引用) <https://city-tech.tokyo/>



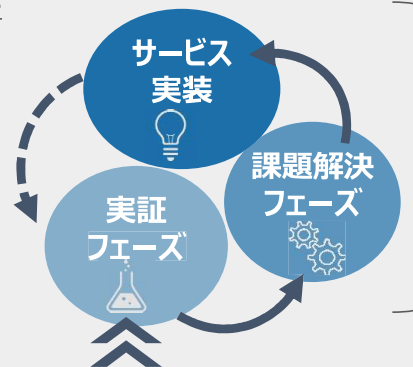
(引用) 東京都HP_「Global Innovation with STARTUPS」の策定

5. 2023年度以降のDIC取組 (1/3)

- DICの当面の優先事項として、新たなデジタルサービスが生まれやすい**環境**を作っていく

デジタルサービスが生まれやすい「環境」のイメージ

1 **【土台】臨海副都心における豊富なサービス需要**
(メガイベント、インバウンド観光、MICE etc)

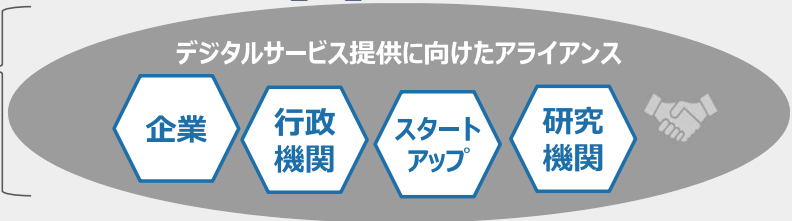


3 **【DIC】サービスのエリア実装に向けた支援**

- 実証予算のサポート
- イベントのプロモーション拡大
- 運営主体候補の探索
- 法規制対応 (ガバナンス)
- エリアデータ活用のサポート etc

2 **【DIC】交流・共創の場づくり**

- プロジェクト推進にあたってDICネットワークの支援 (例) フィールド提供、イベント活用、技術的助言、まちの事業者との連携etc
- エリアのデータプラットフォーム開発
- デジタルインフラの整備 etc



4 **【DIC】新規参入によるネットワーク拡大**

- スタートアップ向けカンファレンス等を通じ新たなプレイヤーの呼び込み
- 動画・HP・SNSを通じた発信

5. 2023年度以降のDIC取組 (2/3)

- 新たなデジタルサービスのエリア実装に向けて、4テーマのプロジェクトチームで取り組む

サービスレイヤー

ライブ・エンタメ

- エリア施設・イベントの企画・演出・運営等のスケールアップやサービス向上につながるユースケースを生み出していく



ART BAY TOKYO ART FESTIVAL 2022
(引用) <https://artbaytokyo.com/>



東京国際プロジェクションマッピングアワード
(引用) <https://www.bigsight.jp/visitor/projection/>

モビリティ・物流


- 移動・周遊につながるサービス実装に向けた継続とサービスモデルの構築を行う
- 移動弱者向けサービス拡大によりインクルーシブ・シームレスなエリア環境を実現



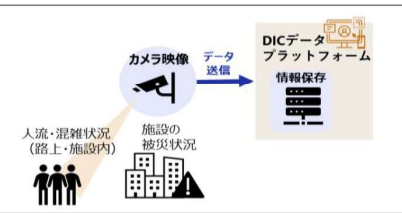
次世代モビリティのまち体験
(引用) <https://tokyo-dic.jp/smart-mobility/>

防災・防犯

- 「公共交通機関が限られる」「イベント時に発災すると多くの帰宅困難者が発生する」等課題に着目し、データ活用やサービス実装を通じ災害対策力の向上を図る



発災時のシナリオ
臨海副都心における発災時のシナリオ



カメラによる人流・被災状況把握 (イメージ)
(引用) DIC データプラットフォーム 要件定義委託業務 ユースケース要件定義書

環境・サステナビリティ

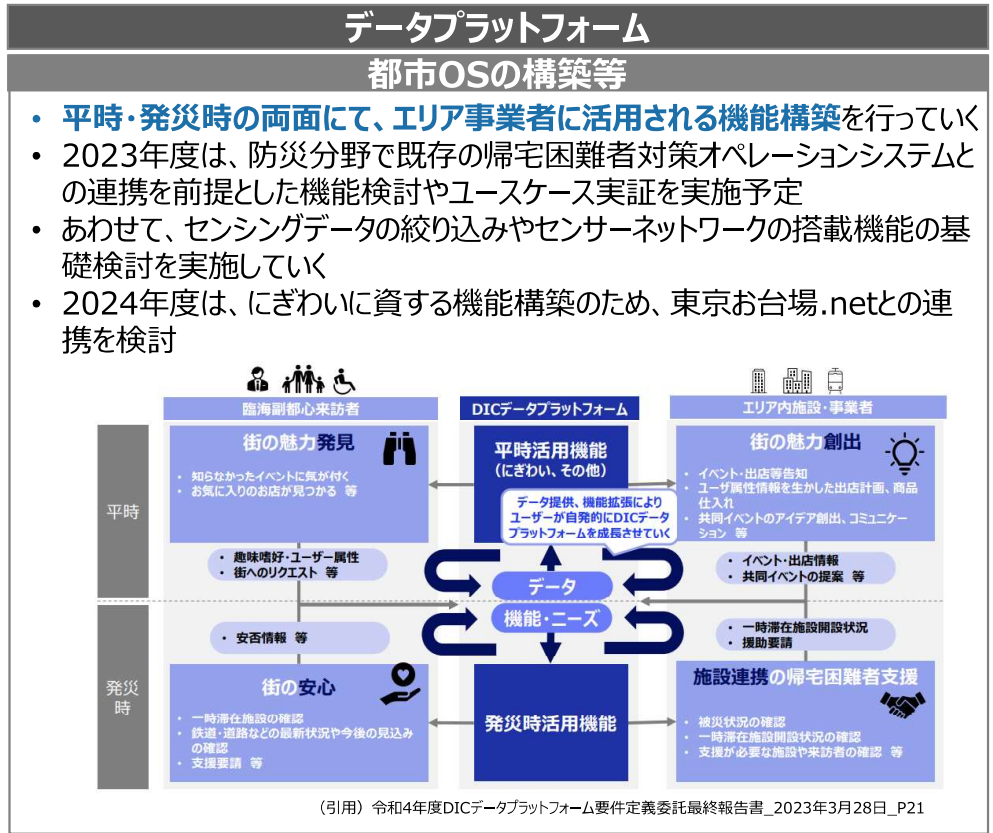
- エリアにおいて環境に配慮した先端技術の活用や持続可能なまちづくりを進める




SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
(引用) https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_logo/

5. 2023年度以降のDIC取組 (3/3)

- 毎年、データ連携と活用事例を増やしながらアジャイル的にデータプラットフォーム（エリアOS）の構築を目指す
- エリア事業者による先端技術の導入に向けたデジタルインフラやガバナンス面についてもサポートを行っていく



デジタルインフラ

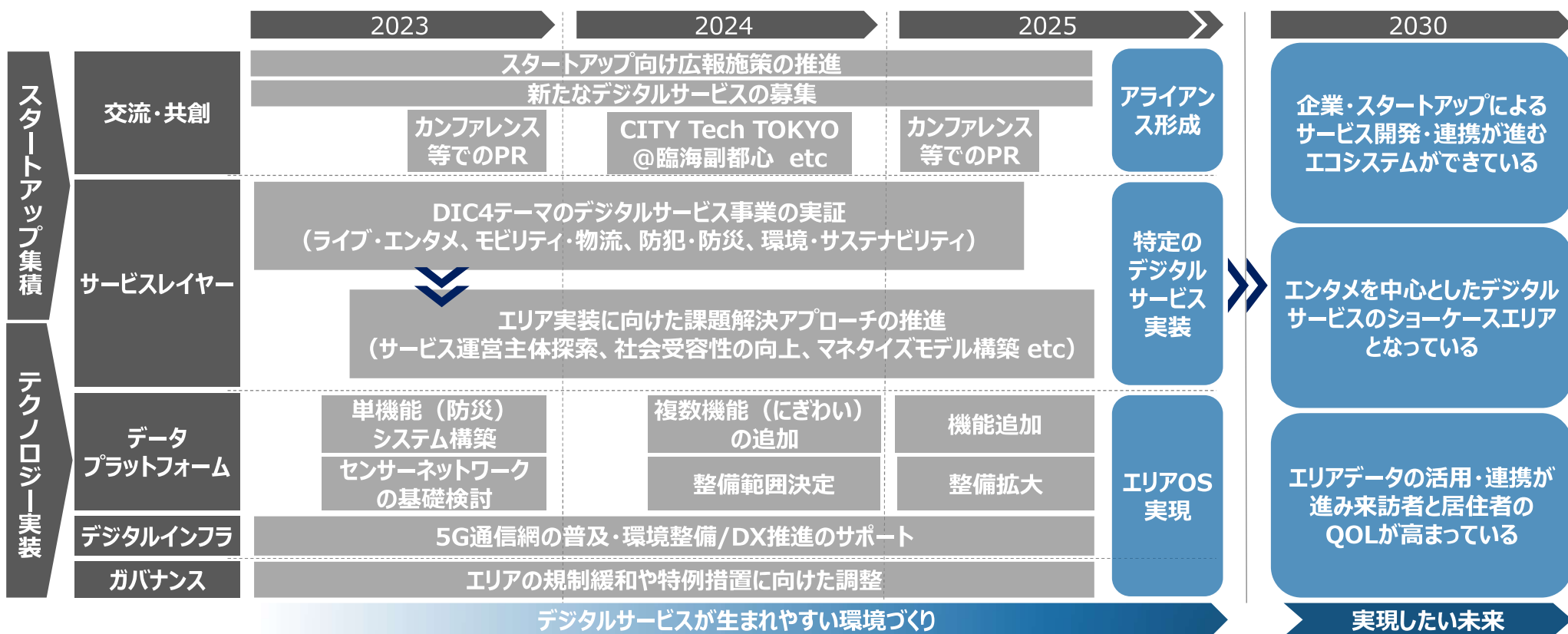
5Gの普及促進事業	DX推進補助事業	社会実装支援窓口
<ul style="list-style-type: none"> • 臨海副都心における5G通信網の普及及び活用の促進を目的とし、まちの事業者等を支援 • 5G活用の先行事例紹介を順次実施 • 導入を希望する場合、通信事業者等の専門家を派遣 	<ul style="list-style-type: none"> • 臨海副都心における5Gなど先端技術の導入や企業進出時のオフィス改修等の設備投資を支援 • DICで実証された技術を周知し、補助を活用した導入を促進 • 補助率1/2、限度額1.5億、予算額2億 	<ul style="list-style-type: none"> • 新たなデジタルサービスの導入にあたって、アイデアや技術を持つスタートアップ等との連携や共創をサポート  <p style="font-size: small;">(引用) DICスタートアップ社会実装支援窓口HP URL: https://tokyo-dic.jp/startup/</p>

ガバナンス

- デジタルサービス実証・実装に関わる規制緩和や特例措置の検討
 - エリア広告規制の緩和措置検討
- 実証結果を踏まえたハード面の課題を交通管理者等と協議

6.2025年、2030年に向けたロードマップ（案）

- 2025年までをマイルストーンとして、アライアンスの形成、サービス実装、DPF・インフラ等の事業を推進
- 2030年にはデジタルサービスが次々実装されているエリア環境の実現を図りたい



7. DICが目指す2030年の臨海副都心のイメージ

- デジタルテクノロジーのユースケース実装と新規プレイヤーの参入が融合することで、やがてイノベーションが自然発生的に生まれだすエリアにしていきたい

「2030年のDIC未来像」パースを挿入予定

(例) 日本科学未来館前の公園エリアにおいて、来訪者が、モビリティやXRなどのデジタルサービスを活用しているシーン

※ 2023年4月以降に制作予定



(引用) 都市空間のリ・デザイン像の一例_大丸有スマートシティビジョン
 URL: <https://www.tokyo-omy-council.jp/smartcity/our-project/>



(引用) Googleが手掛けるカナダ・トロントのスマートシティイメージ
 URL: <https://fcv.side-hustle-parallel-work.com/google-smart-city-idea>

1 .各PTの開催結果

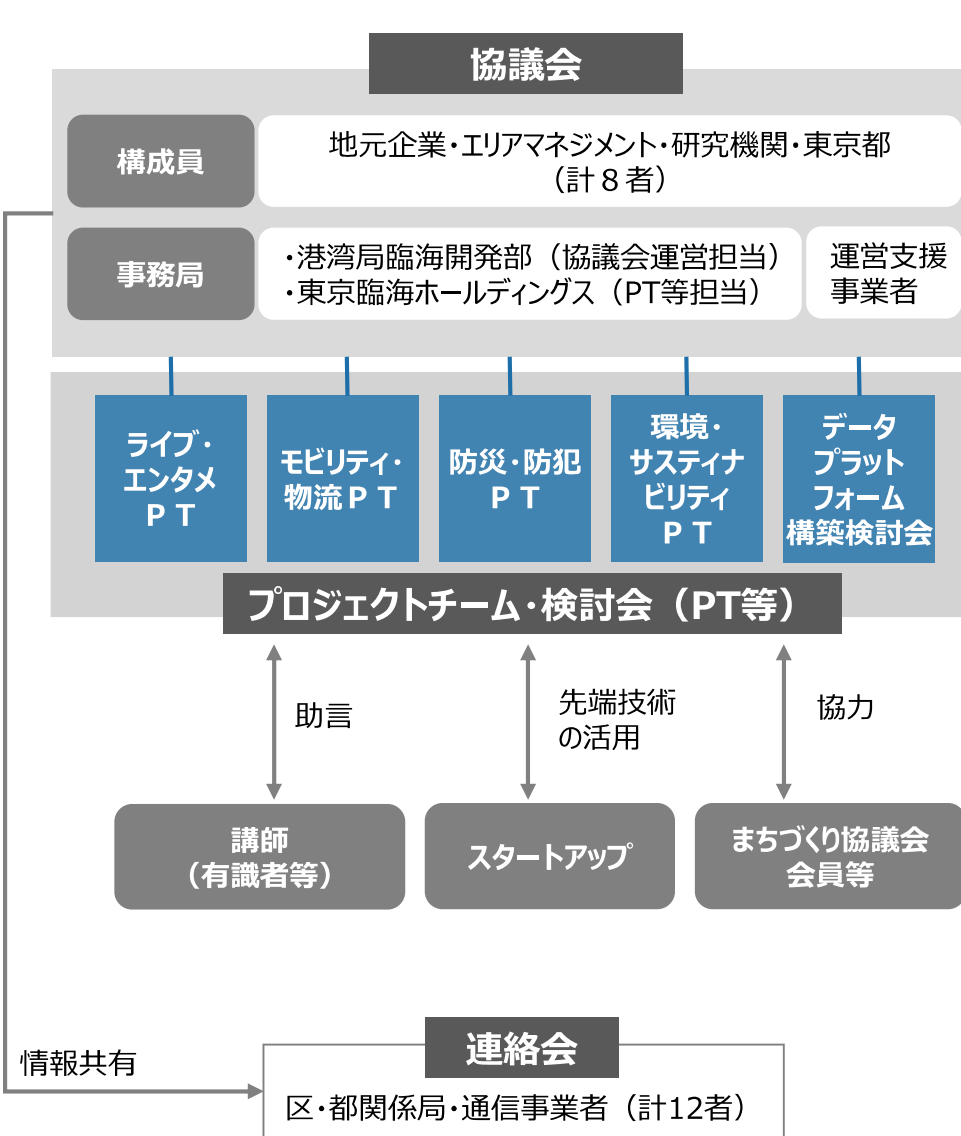
2 .モビリティ・物流PTの継続実証プロジェクトについて

3 .次年度以降のDICの進め方について

4 .令和5年度のスケジュール等について

4.令和5年度のスケジュール等について

令和5年度Digital Innovation City協議会の体制



名称 (実施予定回数)	役割等
DIC協議会 (年4回程度)	<ul style="list-style-type: none"> 実施事業： <ol style="list-style-type: none"> DICの方向性と実現 先端技術の実証またはイベントの企画 臨海副都心における5G通信網やデータプラットフォームなどの基盤整備推進 協議会及びDICに係る広報 その他、DIC推進に係る取組に関すること
プロジェクトチーム・データプラットフォーム検討会 (PT等) (各年6回程度)	<ul style="list-style-type: none"> テーマ：ライブ・エンタメ、モビリティ・物流、防災・防犯、環境・サステナビリティ、データプラットフォーム構築 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> 各PT等のテーマに係る臨海副都心における課題と、デジタル等先端技術による解決事例の検討 (1)に係る先端技術の実証またはイベントの実施 (2)で実証等を実施した先端技術の実装に向けた検証 その他、DICの実現に向けた諸課題に対する取組に関すること
連絡会 (各年4回程度)	<ul style="list-style-type: none"> 協議会、PT等の活動内容を、地元区、都関係局、通信事業者等へ定期的に共有
講師等	<ul style="list-style-type: none"> 学識経験者等の有識者をPT等へ招へい (運營業務支援委託に含む)
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 東京都港湾局臨海開発部 (協議会運営担当) 東京臨海ホールディングス (PT等担当) 運営支援事業者 (都から委託)

4.令和5年度のスケジュール等について

令和5年度Digital Innovation City協議会のスケジュール（案）

取組		令和5年（2023年）										令和6年（2024年）		
		1～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協議会	総会	第4回		第1回				第2回			第3回			第4回
	連絡会	第4回		第1回				第2回			第3回			第4回
PT・検討会	会議	第6回		第1回		第2回		第3回			第4回		第5回	第6回
先端技術の実装に向けた取組	ライブ・エンタメ	成果報告 企画募集	イベント・実証プロジェクトの選定	承認	実証事業の準備と実施							成果報告/分析・考察	最終報告	
	モビリティ・物流													
	防犯・防災													
	環境・サステナビリティ													
	自動運転（公道、公園内）	成果報告	公募		選定	実証事業の準備と実施					成果報告/分析・考察	最終報告		
	データプラットフォーム構築	R5検討最終まとめ	仕様検討	公募	調査・検討							成果報告/分析・考察	最終報告	
DIC社会実装支援窓口	イベント・実証プロジェクトの検討や課題解決のフォロー、新規スタートアップ向けPR・受入調整													
5G普及促進事業	5G専門家派遣・通信キャリア等との調整・DX化補助金との連携													
DX推進補助金		募集開始	協議会・5G普及促進事業との連携による制度周知・支援											
新たな交流・共創に向けた広報	カンファレンス等でのPR	スタートアップ向けカンファレンス等での出展・PR								東京ハイeSG国際発信イベントとの連携に向けた調整				
	HP/SNSでの周知	DIC協議会HPの刷新、SNSを活用した活動PRの推進（随時）												

4.令和5年度のスケジュール等について

直近の会議等の予定

総会

- 第1回総会は、5月上旬頃（GW明け以降）に開催予定
- 連絡会は総会終了後、5月中旬頃までに開催

PT・検討会

- 令和5年度の第1回PTは、5月末頃に開催予定
 - ライブ・エンタメPT、モビリティ・物流PT、防犯・防災PT、環境・サステナビリティPT
- 第1回データプラットフォーム構築検討会も、5月末頃に開催予定